

## 日吉台地下壕保存の会

## 会 報

## 第35号

発行 日吉台地下壕保存の会  
編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

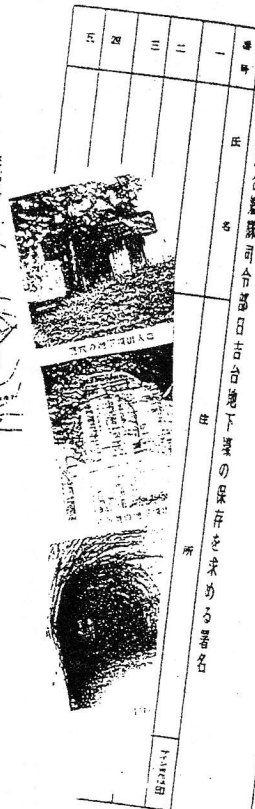
寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会

私たちは日吉台地下壕から見える、光の大城  
すくなくとも、ここに記すようにしなければなりません。そ  
すくなくとも、ここに記すようにしなければなりません。そ  
すくなくとも、ここに記すようにしなければなりません。そ



平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

平成七年十二月

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会

## 目次

陳情署名本決り

2

署名にご協力下さい

3

慶応義塾との公式会見開始

3

95平和のための戦争展かながわ

感想文

4~5

連載日吉台地下壕

当時の関係者の思い出話12

6~7

若い世代に平和訴え

7

運営委員会報告

8

幹事会報告

8

お知らせ「日吉台地下壕見学会」

8

同

「敗戦五〇周年展」見学と

白井厚教授の講演会

8

「(旧海軍)連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存を求める署名」を集め、横浜市長および神奈川県知事に陳情することが本決りとなりました。

保存の会は一九八九年の発足以来、地道に活動が続けてまいりました。会員になってくださった方は延べ七三〇名余り、会報は第三五号をお届けするところまで来しました。

会の代表者(鮫島会長、東郷副会長、寺田事務局長)と慶応義塾の担当理事との第一回公式会見も行なわれました。地下壕見学の希望者もあとをたたず、時にマスコミなどにも取り上げられています。「平和のための戦争展」は三回を重ね、多くの人々に感銘を与えました。この時期に、かねてからの懸案である陳情署名を集めることが、幹事会、運営委員会で数回にわたり練られ、実行に移すことが決定いたしました。署名を集めるためには、大勢の方々の力が必要です。会員の皆様の絶大なるご協力をお願い申しあげる次第です。

会員のみなさまには、五名以上の署名を集めてくださるようお願いいたします。用紙の追加を希望する方はご連絡ください。ご自分でコピーして用紙をつくり、集めてくださっても結構です。

署名の書き方について①居住地はどこにお住いでも結構です。②住所は「〃」にせず、一人ずつ書いてください。③印鑑のない時はサインをお願いします。④ペンまたはボールペンでお書きください。⑤未成年でも判断できる年齢なら差し支えありません。同封の封筒にいれてポストに投函してください。切手はいりません。

十一月二十日まで投函してください。なお、会員以外の方々にもお願いする予定で、これまで地下壕見学に参加された方、「平和のための戦争展」にいられた方、生協や労働組合、学生ゼミなどにも声をかけています。

# 「旧海軍」連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存を求める署名にご協力下さい

今年第二次世界大戦終結五〇周年の年にあたり、世界でも日本でも様々な取り組みがなされてきております。第二次世界大戦のような大きな出来事になりますと、人によりその位置づけ、解釈は様々であろうかと思えます。しかしこのような悲惨、不幸を繰り返してよいと思う人は誰ひとりいないでしょう。

しかし五〇年という年月は決して短いものではありません。いま世代も交代しつつあり、戦争の直接の体験も少しずつ失われようとしております。過去の不幸は一時も早く忘れた方がよいと考える人もおられます。しかしドイツ

の大統領ワイツゼッカー氏も言うように、過去に目を閉ざせば未来も正しく見えなくなるのではないのでしょうか。

幸か不幸か日吉台の地下には旧海軍連合艦隊司令部の地下壕が眠っています。これこそ先の戦争の第一級の遺跡です。これを保存し一般に公開することは、戦争の悲惨さと平和の重要さを認識して行くうえでまたとない助けとなることでしょう。

会員の皆さん、どうか署名に積極的にご協力下さるようお願いいたします。



七月三日(土)午後一時より日吉事務長室で地下壕の保存の会の代表と義塾の小谷津理事との第一回公式会見が行なわれた。会からは鮫島会長、東郷副会長、寺田事務局長が出席。当局側からは小谷津理事の他、斎藤事務長、松本庶務課長が出席した。

## 慶応義塾との公式会見開始

義塾の新理事会発足当初から非公式会見が数回行なわれており、第一回公式会見で何らかの問題解決のてがかりがつかめるものと期待していたのだが、見るべき成果は得られなかった。

①当局は行政当局の「対応策」が得られるまでは静観の方針で、壕の見学も正式には行な

っていない。②横浜などの行政当局の動きはよくわかっていない。③戦後五〇年を記念した行事は当局として考えていない。④したがって理事会にも正式に保存の問題をはか

ったことがない。以上四項目が明らかに。一昨年来、保存の会の数

回の非公式会見がもたれたにもかかわらず、当局は何等積極的な方針を出そうとしないように見られるが、会としては辛抱強い交渉を行なうて展望を見出していかなければならぬだろう。



50年前私の町は戦場だったのか、これが第一印象。また、日吉の司令部の話は前から知っていたが写真で見ると改めて考えるものがある。それよりも、戦時下の教科書や教育、これが第一に印象深い。一言、こんな教育を2度と許すな！ 31才

戦時下の学校の教科書やそれにスミぬりをしたものを初めて実際に見ました。国民全部がマインドコントロールされていたような時代が、ほんの50年前にあったかと思うとおどろくばかりです。33才

コベル神父とご家族の方の業績を知って、胸がつまると同時に感激もしました。2度と戦争を繰り返さないために、地球上での民族紛争を終結していくために、私は何がやれるのか。教師として何を生徒に教えればよいか。新たな決意に立つことができました。この戦争展が、たくさんの団体・個人・草の根の運動をつなぐ大きなステップとなりつつあることを確信しています。39才

慰安婦の問題・731部隊・毒ガス兵器・連行etc, etc知っているつもりでも一つずつほりおこしていくと、まだまだ知らないことばかりでハッとします。一例として相模湖のピクニックランドにも子どもたちがよく行きますが、違った目で見つめることになりそうです。悲劇をくり返さないため、そういった説明の記念碑がたくさん必要ですね。37才

学童疎開や強制連行とか戦争遺跡など、特に神奈川県内にそのあとが残っているのが身近で生なましく感じられました。それから米軍機墜落事件の展示を見たのは初めてですが亡くなった方の無念が思われて、あらためて基地はいらないと思いました。43才

神奈川にこんなにいろんな団体が平和のために闘っているという事実に関心をもちました。時の流れの中で埋もれようとする歴史を掘りおこし、事実を明らかにする中で平和は守られ、平和はひきつがれていくという実感を持つことができました。この会を支えた方々に感謝いたします。46才

神奈川新聞が戦争中、軍国主義者のお先棒かつぎをして国民を戦争へかりたてた過去を自ら検証し反省したことをはじめて知りました。大新聞が揃って戦争中の姿勢についてはおかむりを決め込んでいる中で立派な態度で信頼感を抱きました。52才

神奈川県内にあった日吉地下・藤沢基地・栄区の姿が良くわかった。65才

先日、日吉海軍司令部の壕を見て来たところですが、司令が丘にのぼって笑い話に盡きるところとなり、間違った先の見通しの無い戦争に一握りの国の指導者に左右された日本の末路は全くさんきに耐えぬ。多くの敢えて言うなら兵士・民間人、財産を失い此の現実を直視して民主国家の熟成に努力せなくては。69才

戦争、国内空襲、思想弾圧、疎開事情等々、写真でみせられて今、改めて平和の有り難さを感じて居ります。学徒でビルマの果てまで征って慰安婦に接した事はなかったが写真でびっくりして居ります。再びあのような戦争は防ぎましょう。70才

このような展示を引き続き県内各地でおこなってほしい。今年に限らず毎年続いてほしい。32才

## 「95 平和のための戦争展 かながわ」感想文

わたしは、しらなかったことが あったので よかったと 思いました。ビデオとかもみたので よくわかりました。どうして せんそうが はじまったかが しりたいです。  
7才

痛々しい限りだった。写真や文章から当時の様子が目を通してみてわかる。父も戦時中の生まれで当時の事はよくきかされていたが、あんなにもひどい状況だとはわからなかった。現在日本は平和（と言える状態ではないが）だが、これから先どんな事が起きるとも限らない。それを防いでいくのが今の我々の世代ではないだろうか。16才

（げんばく）戦争でたくさんの人が亡くなったのに、まだかくじっけんをしようとしている国があるのはゆるせない。なにも悪いこともしてない人たちをたくさん日本軍は殺した。これもゆるせないと思う。12才

生写真はなかなか見れないので今日の展示の時、胸の痛み（写真の悲劇さ）と、見れないうれしさで気持ちがごちゃまぜになっていた。戦争の時は『国のため』『天皇のため』とかTVとかでよく言っていたと思うけど今の時代はみんな国のために自分を犠牲になんかないと思う。16才

普段何気なく生活している分には、こういう事実があったなんてみじんも感じられませんが、この平和な日々の影に尊い犠牲が支払われたこともわすれてはならない事実です。だからこの戦争展はそういった事実を風化させないためにもとても重要な役割をもっているといえるでしょう。この悲しい出来事を繰り返さないためにも、僕等でその役割を受け継いでいきたいです。15才

学校の授業や祖母の話などで、けっこう戦争の事は分かっているつもりでした。しかし今日、写真や資料を實在にみたり手に取ったりしてみて戦争のすごさ・恐ろしさが今までにはないほど伝わって来ました。また、原爆による被災を唯一受けている日本として、フランス・中国などの核実験にはぜったいに反対・中止をもとめていかなければならないと思います。今日はとても良い経験をしたと思います。16才

日本軍の中国（アジア諸国）への侵略はとてもひどいものでした。同じ人間なのに！日吉台地下にあった司令部は初めて知りました。今、大学に通っている学生は知っているのでしょうか。横須賀に住んでいますが、軍関係の基地の多さにあらためてびっくりしました。平和の運動をおおくの人にひろめていきたいし、自分も勉強していきたい。29才

戦争を一面からだけみるのではなく、歴史の史実に沿って見ることでよかったと思う。自分の出身校で戦時中に毒ガス兵器を作るために学生がはたらかされていたということを、今日初めて知ってショックだった。29才

弓削先生の講演をきかせて頂きました。「あの戦争」というのか15年戦争だけではなく明治以前からさかのぼっていかなくてはならないことがわかり、とても（難しい）勉強になりました。ただ、年号と語りが多く頭の中で混乱してしまったので、資料などをいただけたとよかったと思います。24才

弓削先生の「今、日本の真の国際貢献とは過去の侵略戦争に謝罪すること」という言葉は同感です。今日の話は1889年以来の近代史を跡づけられ、記憶の整理となりました。福沢諭吉に関する先生の話は啓蒙的でした。最後に述べられた戦後50年、国民の責任論には多少異論を感じます。68才



## 連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 12

日吉の日々 4

昭和一九年三月頃から敗戦まで連合艦隊司令長官付の従兵であった金子氏のお話です。

金子 善一氏の話

(ききて・寺田貞治)

昭和一七年徴兵検査甲種合格。一年二ヵ月後に武山の海兵団に入隊した。卒業後、三重航空隊に配属されたのち、奈良県の丹波町(天理市近辺)の予科練に移った。昭和一九年三月、私ほか九名に「大淀に乗艦を命ず」という指示があった。乗艦した途端当番兵にカツを入れられ、兵員室に案内され三機三連装機銃につけといわれた。



昭和19年11月、日吉司令部の作戦室で執務中の司令長官豊田副武大将。左端にいるのが参謀長草鹿龍之介中将、右端が航空参謀淵田美津雄中佐、長官の後ろが副官桑原春雄中佐。

しばらくして、桑原春雄副官(大佐)に連合艦隊の従兵を命ぜられた。従兵は家柄が良くなければならず、八親等まで調べられるそうだった。私の実家は磯子近郊の大地主で農業をやっていた。

従兵長は上等兵曹の岩館氏、下に二等兵曹の本橋氏がいた。私は見習であった。厳しかった。

だがビンタはなかった。偉い人の前に出る時醜い格好をしていてはいけなくて、ビンタは禁止されていた。

やがて草鹿龍之介参謀長

(中将)の従兵になった。当時、豊田副武長官の従兵は北島氏で、昭和一九年夏頃、三笠宮がこられた時、昼食のスピーチを運んでいてこぼし、宮様の椅子に少しかかったため、従兵長の怒りにふれ更迭された。そんなことがあって、私が長官付の従兵になった。

海軍では昼は洋食と決っていて、従兵は食器の並べ方、持ち方、食べ方などを最初に教えられた。長官が食事をする時は非常時を除いて軍楽隊が演奏した。食事は軍属の烹炊長がつくり、従兵が運んだ。

長官の身のまわりの世話、例えば洋服をクリーニングに出したり、靴下や肌着を洗濯

したりした。従兵は大事にされていた。太ってきた私は特別に服を作ってもらった。

昭和一九年夏頃、長官は九州の鹿屋航空隊に特攻隊を激励に行った。私もついていった。鹿屋は俗に一式ライターの呼ばれ、人間魚雷の特攻基地であった。長官は豊田副武と書いた短剣を特攻隊員一人一人に渡した。みな感激して国の為と信じ死の攻撃に向っていった。

連合艦隊が日吉に移転してからは、慶大の寄宿舎の中寮にいた。豊田長官は南寮に寝泊りしており、時々源田実(戦後衆議院議員)が訪問した。敗戦間近長官は東北地方の航空隊基地などに時々激励に出かけた。

中寮と南寮の間に長官専用の風呂があり、西側に別の大きな風呂があった。烹炊所は

それぞれの寮に、作戦室は中寮にあった。寮の東側の少し離れた所に機関兵の宿舎があり、自動車の整備をしていた。

食事はかなりよかった。参謀以上の将校は銀シャリ(飯を食べていた。朝食は味噌汁、干物、甘煮、漬物など。昼食はフランク、スプーンを使っ

ての洋食で、肉料理の時にはワインがついた。中尉以上と兵士がかりきりで面倒をみ

以下は違い、少佐以上はまた違う。下士官は麦と米の割合が七・三であった。量は十分にあり、腹が減る事はなかった。食糧事情はよく、地下に備蓄されていたようだ。

中寮と北寮の間で七面鳥を飼っていた。「ニワトリを飼った経験者はいないか」といって飼育係を募集し、一人の

「95平和のための戦争展かながわ」については、開催まぎわに前号でお知らせしましたが、ご覧になりましたでしょうか。神奈川新聞95・8・9の記事をお届けします。

## 若い世代に平和訴え

鎌倉で11日から「戦争展」

市民団体「写真など300点

平和の大切さを、戦争展を通して訴えたい。「95平和のための戦争展かながわ」が、十一日から鎌倉市大船の鎌倉芸術館ギャラリーで開かれる。主催は同実行委(弓削達委員長)。これまで、個々に平和を訴えてきた各団体が、主催者の呼び掛けで初めて協力し合った戦争展で、会場には写真パネルを中心に、資料、遺品など約三百点が展示される。

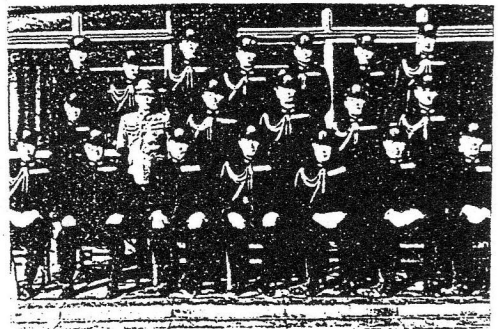
戦争展のテーマは「戦争」「相模海軍工廠(しよん)」「と神奈川」。戦争を体験し「藤沢みその地区特殊地下壕(こう)」「座間地下飛行機工場」「田奈火薬補給廠」という。ギャラリーでは「船と戦争」「日本の侵略

戦争」。ギャラリー2では「戦争と教育」「戦時下の市民生活」「女性と戦争」「私の町にも戦争があった」がそれぞれ展示される。

いずれも写真や現物、地図などで構成される。なかでも米穀通帳や衣料キップなどは、当時の市民生活の一端をうかがわせる。「戦時下の市民生活」は普段ほとんど目にふれないものだけに関心を呼びそう。教育勅語の現物とパネル、学校儀式、軍需教練、学童疎開、勤労動員といった当時の教育、も写真で紹介される。

「私の町にも戦争はあった」では、ほとんど知られていない日吉台地下壕を保存する会が紹介、併せて旧陸軍謀略秘密基地登録研究所跡の写真も展示される。ほかに、戦没船を記録する会の「輸送船の悲劇」、「治安維持法下の反戦平和の戦い」「マスコミと戦争」「今も残る米軍基地」など、戦時下における抵抗の模様なども紹介される。

「戦争展」は十三日まで行われるが、期間中の十一日午後三時から「戦後50年に問われるもの」と題して、実行委員長の弓削達フェリス女学院大学長が講演する。引き続いて「戦争体験を聞く会」(午後五時)、十二日は弾き語りによる戦争回想(午後一時)、十三日は鎌倉近代美術館の水沢勉学芸員による「戦争と美術・日本とドイツ」と題する記念講座が開かれる。入場無料。



昭和20年1月、日吉司令部作戦室前の聯合艦隊幕僚。

左から参謀副長の高田少将、神立金作軍医長、司令官豊田大将、侍従武官、参謀長長鹿中將。後列の左から3人目が著者。

ていた。長官が盆栽を買った時も経験者を募集した。連合艦隊が丘に上がったことを聞いた時、兵隊たちも勝ち目はないと思った。

(生協ニュース教職員版第四六号より抜粋転載)

写真は中島親孝著「連合艦隊作戦室から見た太平洋戦争」光人社 一九八八より

